



令和 4 年度都市計画演習

6 班：都市計画史班最終レポート

班長：上山滉介 副班長：岡野勇太

記録：鈴木颯子 DB：迫屋景亮 及川智也

渉外：入安ディリ 角田圭吾

担当教員：松原康介 TA：渡邊智也

# 目次

## 1 章 序論

- 1-1 演習の背景と目的
- 1-2 谷田部の概要
- 1-3 調査のフレーム

## 2 章 本論

- 2-1 既存調査の収集と分析
  - 2-1-1 既存調査の収集
  - 2-1-2 その他の文献調査
  - 2-1-3 分析のまとめ
- 2-2 実態調査実施とその分析
  - 2-2-1 フィールドワークの実施
  - 2-2-2 ヒアリング調査
  - 2-2-3 考察と分析
  - 2-2-4 地図の比較と考察
    - a. 飲食店
    - b. 商店
    - c. 農地

## 3 章 計画の提案

- 3-1 提案の背景
- 3-2 提案のアイデア
- 3-3 提案内容
  - 3-3-1 地図の作成
  - 3-3-2 谷田部 de マーケット
    - a. 現在の活動
    - b. 先行事例
    - c. 内容

d. 有用性

e, 効果

## 4 章 結論

4-1 まとめ

4-2 今後の課題

4-3 参考文献

4-4 謝辞

# 1 章：序論

## 1-1. 背景と目的

今回の都市計画演習の授業で、私たち第 6 班のテーマとして設定されているのは「つくばの都市計画史」である。

いま、私たちの多くが暮らし、日々学んでいるつくばという都市について都市計画という側面から考えたときにすぐに思いつくのは、戦後に開発された研究学園都市である。しかし、与えられたテーマについて私たちが話し合いどのような観点から調査をしていくかを考えた際、つくば研究学園都市について掘り下げるのも面白そうだけれど、それだとありきたりなテーマだ、という結論に至った。実際、昨年度の松原先生の班は「長靴と星空」と題して、同名の「長靴と星空-筑波研究学園都市の十年(1981 年刊行、筑波研究学園都市の生活を記録する会編集)」という、研究学園都市黎明期のつくばに住んでいた人々からみた研究学園都市の形成期の歴史やもともと住んでいた住民(旧住民)と新たに引っ越してきた住民(新住民)との関係性についての証言を集めた本を参考に、新旧住民の融合過程について調査している。私たちも最初にこの本を読んだのだが、この本を参考にして研究学園都市エリアについて調査しても昨年の発表と代わり映えしない内容になりそうだという予測が容易にたてられた。

そこで、私たちの班はつくばに学園都市と少し違う雰囲気を持つ集落もあるということに注目した。「都市計画」について追いかけると近代の研究学園都市の開発に目を奪われがちで、実際昨年の調査などはそこに着目したものだったが、昔からこの地に暮らしてきた人たちにとっての「都市計画」とはどのようなものなのかを調べたいと思ったからである。このような理由から私たちは、つくばに数ある古くからある都市の中から、谷田部という地域に目をつけて調査を実施した。

谷田部を選んだ理由の一つが、こちらの写真(画像 1)である。この画像は、伊能忠敬によって描かれた地図「大日本沿海輿地全図」の中でも関東エリアについて描かれた地図だ。

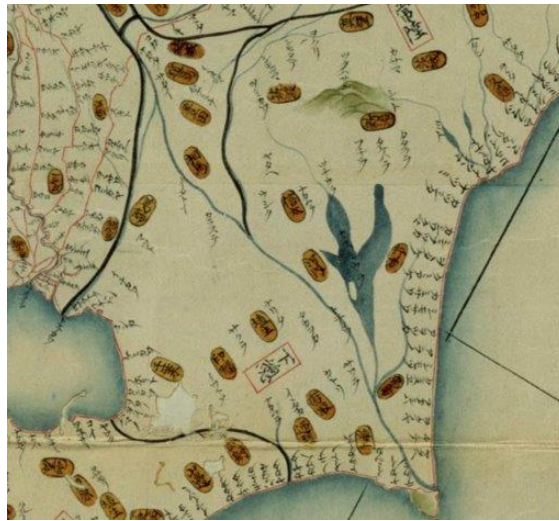


図 1 大日本沿海輿地全図

この中で現在のつくば市が所在する地域の代表地名として、「ヤタヘ」と記述されています。つまり、現在でもつくば市に名前が残る谷田部という名の地域は少なくとも江戸時代から世間的に知られていた地域、つまりこの地域の中心地域であったことがわかる。

しかし、現在のつくばに暮らす皆さんは谷田部にどんな印象があるだろうか。おそらく、大学進学を機につくばにやってきた多くの人は谷田部に特段の印象を持っていないと思われる。もしかしたら、谷田部がつくば市のどこにあるのか知らないという人もいるかもしれない。調査を始める前の私たちも同様に、谷田部について多少の印象を持つ班員でも「古くからの家が残っていて、道が曲がりくねったどこにでもありそうないかにも『古い』街並みのまち」という印象を持っているだけだった。

## 1-2. 谷田部の概要

谷田部という地域はつくば市の南西部分に位置する地域だ。地域内にはつくばエクスプレスのみどりの駅があり、駅周辺地域はベッドタウンとして新興住宅地が開発されている。この地域は現在進行形で開発が進んでいる地域で、自動車を利用した生活を前提とした設計がなされており、道は広く直線的に計画されている。いたるところに公園があり、まとまった緑が残っているのもこの地区の特徴だ。実際にこの地域を歩くと、「明るくきれいな街」という印象を受けた。

一方で、このような地域は谷田部の中の限られた一部である。谷田部エリアの面積は 5608 km<sup>2</sup>ありますが、このうちのほとんどの地域は田園地帯だ。そして、みどりの駅から見ると田園地帯を抜けた先の小高い丘の上の地域に古くからある街並みが残る旧市街地が存在している。この地域こそが伊能忠敬の大日本沿海輿地全図に記載されていた「ヤタヘ」という地域に当たる。この地域を歩いてみると、歴史のある町らしく道は狭く曲がりくねっていて、見通しが悪い場所がいたるところに残っている。それでも交通量は多く、ほとんどの自動車

がかなりスピードを出して通過するので「とても歩きにくい」という印象を受けた。昔商店街であったのだろうと思われる大きめの道の遠藤には廃業したりシャッターが閉まったままになったりしている商店が多く、その商店街の中をも車がどんどん通り抜けていっていた。このような現在の状況を見て、私たちは谷田部の中でも歴史のあるこの地域について調査を進めることにした。

谷田部エリアの人口は 2022 年 11 月時点で人口は 6,631 人である。みどりの駅を周辺に宅地開発が進んでいることからエリア全体としての人口は微増傾向にあるが、宅地開発のスピードと人口増のスピードとの差から、周辺にある古くからある地域では人口が減少しつつあることが容易に推測できる。

谷田部の市街地は先述した旧市街地が所在する旧谷田部町(明治時代の大合併以前からの「谷田部町」)を中心として発展してきた。この地域は江戸時代に熊本細川氏の分家に当たる細川家の谷田部藩の中心として藩庁がおかれたことから陣屋町として栄えたため、近くには五角堂や陣屋跡などの歴史的な建物や名所も残っている。

この地域ですすでに行われている街おこし活動として、筑波大学藤田研究室による R8 ロゲイニングの活動がある。周辺市街地の理解が深まる取り組みとしてつくば市内各地で実施しており、谷田部でも今年 11 月に行われた。この取り組みでは、「谷田部ワクワク物産展 & つくば R8 ロゲイニング」と題して谷田部地域でもともと実施されていた物産展と一緒に、ロゲイニングという町の宝探しゲーム(つくば R8 ロゲイニング HP より)を実施している。

### 1-3. 調査のフレーム

私たちの班では、この図(図 2)のように調査を進めた。

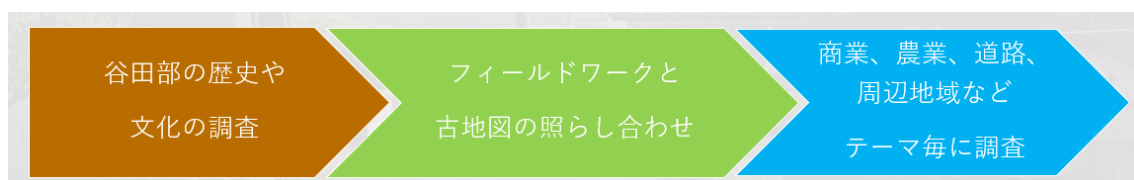


図 2 調査の順序

まず、文献調査として書籍・先行研究・古地図を収集した。  
ステップとしては最初に歴史・文化を調べ、次にフィールドワークを行い、集めた古地図と照らし合わせを行った。  
そして、テーマごとにさらに調査を行い地域について知識を蓄えた。  
ここからはそれぞれのステップについての詳細を述べていく。

## 2 章：本論

### 2-1. 既存調査の収集と分析

### 2-1-1. 既存調査の収集

既存調査の収集として先行研究の収集を行い、その研究と実際にその他の文献調査を経てわかったことからその実態が確かであったかどうかを調べた。

まず既存の調査として主に扱った先行研究についてまとめる。まず小口千明・高橋淳・上形智香・新宮千尋・中川 紗智[1]は谷田部の「にぎわい」について歴史的な観点から詳細にまとめたものである。おおよそこの論文から過去の谷田部の「にぎわい」の実像を読み取ることができた。農村部からの谷田部の実態や娯楽機能の存在、北条などのつくば市内の他の中心地域との違いなどが言及されている。この研究から谷田部が政治・商業の両面で中心地として非常に栄えた歴史を持ち、周辺の地域との関係性としては明らかな優位性があったことが読み取れた。このようにほかの地域に対して優位であったことから 1955 年の合併では葛城村、島名村、小野川村、真瀬村の四地域と吸収合併であったようだと読み取れる。しかし、大正期に建てられた獣霊碑の分析によれば谷田部の交流の広がりには南西部の地域であり、現つくば市などの北東方面とは交流の広がりには小さかったようである。この獣霊碑とは谷田部の商店街の活況を願いほかの地域から寄付をしたことの事実が記されていて、活況にかかわる人々の哀悼の意を示したものである。周辺地域とのつながりは強く、谷田部が独立した商業地域を形成したと考えられる。また、昔ながらの商店街でありながらモータリゼーションの対応が遅れたことや職住一体の生活様式が困難になってきたことでだんだんと店舗が縮小していったことがわかった。現在のシャッター化が進んだ原因と考えられるのが、研究学園都市構想などの外部的な要因だけでないことがわかる。



図 3 獣霊碑



図 4 1980 年代の谷田部商店街

さらに、もう一つ関連する先行研究として高橋 伸夫、村山 祐司、松村 公明、吉村 忠晴、側島 康子[2]がある。この論文では上記の小口千明・高橋淳・上形智香・新宮千尋・中川 紗智[1]で谷田部の商業の衰退の実像を理解した上で、つくば市としてどのように商業構造が変化したかを読み取ることができた。谷田部は独立した商圈として確立されていたが、研究学園都市の建設などによってつくば市に新たな商業地区が形成されたことで大きな変化があったことがわかった。上記でも述べたように家族経営による小規模で伝統的な商業活動が行われていたが、研究学園都市の建設で、大型で広域的に対応できる近代的な商業形態が確立された。これにより谷田部にあった独立的な商業の優位性というものが薄まっていったことが理解できる。

#### 2-1-2. その他の文献調査

その他の文献調査について説明する。谷田部の歴史編さん委員会[3]によれば谷田部はつくば市としては歴史的な地域と見られ、これは江戸時代の陣屋、明治時代の筑波郡役所の存在による。このような中心的な機能を有していたことから様々な都市機能を引き寄せ、中心性を作り上げていった。実際に多くの学校や警察署が存在し、鉄道の計画も存在したほどである。集落形態としてはつくば市でよく見られる一本道に沿って建物が並び、さらにその外に農地が広がるような形態ではなく、他の地域とは疎外された場所として独立して確立された集落である。もちろんこのような形態となったのは陣屋などの中心的な機能が存在したからである。また、このようなまちであるものの農業のまちとして発展した歴史も持ち、以前は田んぼに囲まれた地域であったことから「タニシ町」と呼ばれるほどであった。江戸時代からの街道や水海道-土浦間の道が整備されたことで周辺の農村地域と交易が盛んであったことによるものである。交通の結節点として発展したことからの地理的な要因も大きく影響しているようで、実際に小口千明・高橋淳・上形智香・新宮千尋・中川 紗智[1]でも交通量の多さと通行人の少なさが言及されている。そしてこの結節点の役割が現在でも損なわれていないと考えられる。しかし、研究学園都市構想や高度経済成長による工場誘致の流れなど、農業は徐々に伝統的な形態から現代の機能的なやり方をとるようになっていった。これと同時に商業も時代の流れ、異質ともいえる研究学園構想、また先行研究で見たその他の要因によって大きく変化していった。谷田部の産業構造としては農業・商業どちらも職住

一体の形態であったことから同じ要因の影響を受けていると考えられ、跡継ぎ問題などが起こっていたのではないかと考えられる。

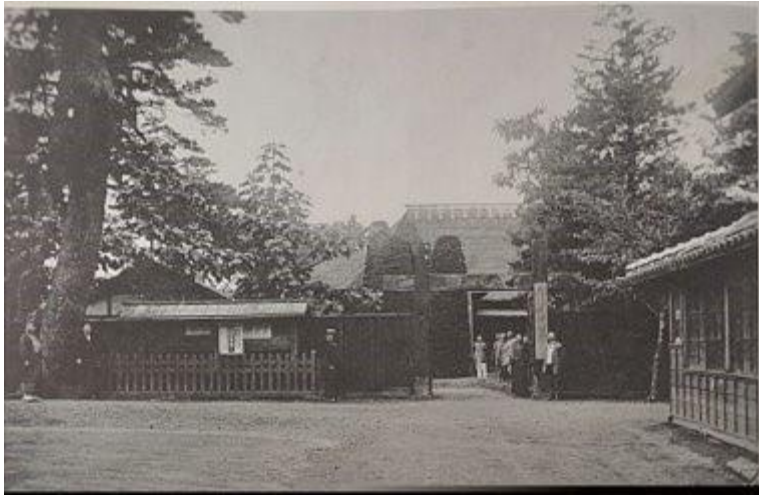


図 5 筑波郡役所

2-1-3. 分析のまとめ

既存研究の分析をまとめると、谷田部は①行政・商業の両面で中心性を持っていたこと、②衰退の原因は外部的な要因だけではないこと、③職住一体の産業構造の限界が見られること、④交通面など地理的な要因による発展があったことが挙げられる。それぞれが商業・農業・まち全体に影響し谷田部は衰退したのだと考えられる。つくば市に大きく影響した研究学園都市の建設だけが谷田部の衰退に影響したのではなく、時代の流れや元々谷田部の構造から伝統的に作り上げてきた産業構造は衰退せざるを得なかったと考える。

ここで得られた情報の中から重要となる出来事の年表を示す。

表 1 年表（筆者作成）

| 年    | 主な出来事                            |             |
|------|----------------------------------|-------------|
| 1945 | 農地改革                             | -農村としての発展-  |
| 1955 | 谷田部町・小野川町・真瀬村・島名村・葛城村が合併し谷田部町となる |             |
| 1958 | 建設基本計画書に工場誘致が登場                  | -急激な都市化の進行- |
| 1963 | 筑波が研究学園都市に指定                     | -高度経済成長期-   |
| 1973 | 用地買収終了                           | -新たな開発の連続-  |
| 1980 | 筑波研究学園都市概成                       |             |
| 1981 | 谷田部インターチェンジ開通（柏 - 谷田部）           |             |

|      |                      |             |
|------|----------------------|-------------|
| 1985 | 国際科学技術博覧会            | -商業機能の衰退が進む |
| 1987 | つくば市発足               |             |
| 2005 | つくばエクスプレス開通（みどりの駅開業） |             |
| 2010 | 研究学園へつくば市役所移転        | -行政機能の衰退-   |

## 2-2. 実態調査実施とその分析

### 2-2-1. フィールドワーク

実際にフィールドワークをして谷田部の歴史的な建築物・道を確認することができた。それを以下に記す。

#### ・五角堂

五角堂は谷田部出身の科学者である飯塚伊賀七が設計した建築物だ。この五角堂は床面が五角形という珍しい形をしている。中には伊賀七が発明した和時計が入っており、こちらは谷田部郷土資料館で展示されていた。和時計は撮影禁止だったので写真は割愛させていただくが、この五角堂の中にちょうど収まるくらいの大きさのからくりである。見てわかるような破損もないことから、この五角堂は大切に保存されていて、谷田部の象徴的建築物であると感じた。



図 6 五角堂

#### ・御殿玄関

御殿玄関とは谷田部陣屋の玄関であり、陣屋で現存するのはこの玄関のみである。現在陣屋の跡地には谷田部小学校があった。御殿玄関は元の位置から移設されて今は谷田部小学

校の前にある。この御殿玄関は保存状態が良く、谷田部の遺産として活用できそうだと考えた。



図 7 御殿玄関

・千歳通り

千歳通りは町の庭として広場の機能と、人、自転車、自動車が安全に通行するための序列共用道路としての機能を持つ道路だ。商店街から旧市街地への道として交通量が多く、町のイベントの場としても活用されている。地面がレンガのタイルになっており、道幅も歩道も含めて十分にある、今の谷田部のキーとなる空間だという印象を受けた。



図 8 千歳通り

・商店街の道路

商店街の道路はこの写真のように急カーブが見られる。これは陣屋が置かれていた時代に、敵からの侵入を防ぐためにあえて見通しを悪くした鉤型道路の名残である。



図 9 クランクのある道路

このように谷田部には歴史を思わせる要素が現在も残っている。どれも貴重なもので背景にある歴史の物語も面白い。同じつくば市民でも、特につくばエクスプレス沿線の新築物件に引っ越してきた家族はこのような場所があることを知らない人が多いのだろうと考え、もったいないと感じた。

#### 2-2-2 ヒアリング調査

対象者は商店街の方々と、今も営業しているお店の方に話を聞いた。

主な質問項目としては、過去の谷田部の様子や賑わいについて、過去と比較した谷田部の現状に対する考え、賑わいを戻すには、またはそれ以外の道があるのか、谷田部の魅力やおすすめの場所と問題点を中心にヒアリングした。文献調査などではわかりにくい地域の人からみた谷田部を知るため、事実だけでなく意見を答えてもらえるような項目を考えた。

まず、スドウ酒店の店主の方からのお話では、問題点として後継者がいないことが挙げられていた。後継者がいなければ当然店を閉めることになるので、商店街のお店が減っていくのは残念だが仕方がないとのことだ。また、谷田部の魅力については小中高と一通り学校があり、豊かな自然と住民の気質や人柄が相まって穏やかな空気が流れることを挙げていた。

続いて、主に野菜や果物を取り扱う高野屋商店の店主の方からは、商業の中心はみどりの駅に移動したように感じるとの意見があった。商店街で閉店したお店の中には普通の住宅に建て替えたところもあるため、昔の商店街に戻ることはできないことや、ちょうど高野屋商店の向かいにアパートが最近できて、商店街というより住宅地のように感じる地域になってきていることを教えて頂いた。また、谷田部の魅力については、お祭りなどのイベントのときには協力して積極的に参加する人が多く、とても盛り上がることを挙げていた。

続いて、醤油を主に取り扱う沼屋本店では現在の店主の父である先代店主の方からお話を頂いた。サイエンス大通りなどの大通り沿いの大型商店の影響があるという指摘や、閉店したお店を再開させても費用や採算が取れるかの問題があり、商店街を復活させるなら外部から招いたお店に場所を貸してテナントとして入ってもらえれば良さそうだと提案も

頂いた。また、谷田部の魅力としてはやはり人柄を挙げていて、一方その穏やかな気質がゆえに他の人の店に対して再開を促すなどの口出しをしないことも教えていただいた。



図 10 玉川堂の外観

#### <玉川堂>

昔の商店街では、通りに面するほぼ全ての建物がお店だったが、今は客足が遠のいている。特に映画館を玉川堂がやっていた頃には、演歌歌手の北島三郎さんが訪れるなど、すごい賑わいだった。

#### <地元の人>

にぎやかだった時期は万博頃までで、おばあちゃんたちの子供世代(私たちから見ると親世代)がいなくなって、衰退していった。そのことにより後継者不足となり廃業するお店が増え、商店街のお客さんが減ってしまった。また、商店街は昔から車通りが多く、買い物客も車中心だった。

#### 2-2-3. フィールドワーク・ヒアリングからの分析

ヒアリング調査から考えられることを記していく。ヒアリング調査の共通点としてほとんど全員の人が、谷田部の魅力として「住民の人柄がいいところ」と回答した。このことは実際にヒアリング調査に協力的であったことから実感できたし、ヒアリング調査をしたからこそ得られた情報であった。また、予想に反して研究学園都市建設が衰退の直接的な原因だと語る人はおらず、後継者不足としていう商店街の一般的な衰退によって矢田部は衰退していった。研究学園都市建設はあくまでも間接的な要因であることがわかった。これまでの情報を整理すると、つくば市が合併・発展したことにより、少ない人数で多岐にわたる業務をこなさなければならない個人商店の他に働き口が出現したことが考えられる。これにより世代交代に失敗してしまい商店街は衰退していった。また、多くのお店で飲食店やお客さんへの配送業務を行っており、最近は昔からの店舗営業から配送業にシフトしている。これ

は商業の中心が他の場所に移動した今も、土地勘や人脈・長年の営業実績が信頼されて仕事を任されていることの表れである。これだけ愛されているお店が谷田部にはあり、谷田部には盛り上げる潜在的なパワーがあると推測できる。

#### 2-2-4. 地図の比較と考察

谷田部のまちがどのように変化していったのかを明らかにするため、地図を用いて商店・飲食店・農地の変遷をたどった。

まず過去の谷田部の様子を知るために、1989年と1997年のゼンリン住宅地図を調べた。小地区ごとに印刷されている地図を貼り合わせ、東西方向に4キロメートル南北方向に1.3キロメートルほどの範囲の地図を作成した。その後地図に書かれている情報や地図記号を読み取り、飲食店・商店・農地をそれぞれ色分けした。現在の地図はGoogle Mapと（色分けしたのに使った情報）を用いて同様の作業を行なった。出来上がった3枚の地図をレイヤーに分けて重ね合わせることで、谷田部のまちの変遷を視覚化することができた。

##### 2-2-4-a. 飲食店



地図 1 1989 年の飲食店



地図 2 1997 年の飲食店



地図 3 2022 年の飲食店

地図 1、2、3 の青色で塗られている箇所は、それぞれ 1989 年、1997 年、2022 年の飲食店を表している。1989 年は商店街（谷田部小学校周辺）のあたりに飲食店が点在していた。1997 年になると県道 19 号や国道 354 号などの大通り沿いに新たな飲食店が出店されるようになった。1997 年が一番飲食店の数が多かった。2022 年の地図を見ると、1997 年から 2022 年までの間で、商店街周辺の店を中心に多くの店がなくなっていることが読み取れた。

#### 2-2-4-b. 商店



地図 4 1989 年の商店



地図 5 1997 年の商店



地図 6 2022 年の商店

地図4、5、6の黄色で塗られた箇所がそれぞれ、1989年、1997年、2022年の商店を表している。1989年の地図を見ると、商店は谷田部小学校の南、谷田部川と県道3号の間のところに密集していることが分かった。ここは現在も谷田部の商店街であることから、1989年は商店街として賑わっていたことが考えられる。1997年の地図と1989年の地図を比較すると、1997年の方が商店が存在する範囲が東西方向に広がったことが分かった。このことから我々はこの時代に谷田部というまちが大きくなっていったのではないかと考察した。また、飲食店と同様に県道19号や国道354号沿いに新たな商店が現れ始めたことも読み取れた。1989年から1997年にかけて商店数が増加した一方で、1997年から2022年にかけては減少したことが、地図5と地図6の比較から分かった。特に商店街周辺の減少が顕著である。一方大通り沿いには新たな店ができている。フィールドワークをした結果、商店街周辺の商店は個人経営の小規模の店であるのに対し、大通り沿いの商店は大規模なチェーン店であることが分かった。よって、谷田部では個人経営の店は閉業している一方で、チェーン店は増え続けていると分かった。

#### 2-2-4-c. 農地



地図 7 1989 年の農地



地図 8 1997 年の農地



地図 9 2022 年の農地

地図 7、8、9 の緑の箇所がそれぞれ 1989 年、1997 年、2022 年の農地を表している。1989 年と 1997 年は谷田部地域の大半が農地として利用されていたことが分かった。特に国道 354 号の北西側や県道 19 号の西側に多く分布していた。これらと 2022 年の地図(地図 9)

を比較すると、2022 年は大幅に農地が減少したことが分かった。特に国道 354 号以北で農地が消滅していた。一方で、谷田部川流域など新たに農地として利用されるようになった箇所も存在していることが分かった。このことから、農地の総面積は減少しているものの、谷田部の農業が衰退しているとは言い切れないのではないかと考えた。

## 3.章：計画の提案

### 3-1. 提案の背景

谷田部の現在と過去の地図比較とヒアリング調査から、谷田部は衰退していることがわかった。そこで谷田部の歴史を踏まえて谷田部を再び盛り上げる提案をする。

「盛り上げる」とは「地域活性化」と同意義であり、地域がそれぞれの地域の経済や社会、文化などの動きを活発化させたり、地域の人々の意欲を向上させたりすることで、地域を維持発展させることと定義する。谷田部地域において、この「活性化」が期待できる場所として「谷田部商店街」に焦点を絞って提案をしていく。

江戸時代の谷田部は小規模ながら城下町が存在し、交通・交易の要所として賑わいがある町であった。江戸時代の街道が今でも主要道路として使われていることを考慮すると、谷田部のアクセスはいいと言える。またインタビューでの「人が来ないからシャッター街になったと言うよりシャッター街になったから人が来なくなった」と言う住民の意見から、谷田部商店街に人が来るポテンシャルは十分にあると考えた。

加えて、商店街に活気を戻すには人々に車で通り過ぎるのではなく、商店街を歩いてもらうことが重要だと考えた。「商店街を歩く」ということには買い物、食事といった商店街に経済的利益が出る出来事と、休憩やおしゃべりなどの人同士の文化交流の場ができるためだ。そこで私たちは谷田部の歴史や地理的条件から、ターゲットを「みどりの駅周辺の新住民」に絞り、谷田部商店街を歩くことで活性化につなげる目標を掲げた。

### 3-2. 提案のアイデア

商店街へ来る動機付け

商店街活性化に向けて、人々が商店街へ来る動機を分析し、具体的提案につなげる。

商店街へ来る動機は大きく

1. 物を買う
2. イベントに参加
3. 人と話す

に分けられると考えた。これらの動機を満たす店舗やイベントを増やすことで集客につながる。以上 3 つの動機を満たすための具体的な

1. 「物を買う」という動機を満たすには

- ・地元の特産物を揃える
- ・商店街オリジナル商品を開発
- ・新しい店を出す

などが考えられる。

2. 「イベントに参加」には同じように

- ・空き店舗でイベント
- ・お祭り
- ・フリーマーケット
- ・日曜市
- ・国際交流イベント
- ・学生と提携したイベント、出店

などが考えられ、

3. 「人と話す」と言う動機を満たすには

- ・公園の設置
- ・ベンチ、テーブルの設置
- ・休憩所近くに自販機の設置 などが挙げられる

### 3-3. 提案内容

#### 3-3-1. 地図の作成

これらのアイデアをもとに、上記の地図上の赤い道「千歳通り」を活用した具体的な提案をしていく。

また、商店街を訪れる人々をターゲットに、視覚的にわかりやすいマップを作成した。商店街の有名な史跡やお店の情報が載っており、初めて商店街に来る人や、子供でも親しみやすいものになっている。



図 11 谷田部商店街の地図（筆者作成）

また上の地図に載っている店や史跡を簡単に紹介する。

五角堂；五角堂は、「からくりの伊賀」と呼ばれ人々に今なお敬われている天才・飯塚伊賀七の創作によるもの。五角堂は一辺 4.6m の正五角形の建物で、中心の高さ 6m であり、当時困難とされていた奇数辺形の建築法が駆使されている。

谷田部陣屋跡；細川興昌によって 1619 年に建築された谷田部落の陣屋で藩庁であった。廃藩置県後は筑波郡役所となった。現在では谷田部小学校の敷地となり、遺構としては御殿玄関が公民館玄関として小学校前に移築されている。改修が多く施されているものの、細川氏の九曜紋が屋根に残されている。また、陣屋門が市内北中妻の民家に移築されている。

玉川堂；120 年続く老舗の和菓子店であり、今の店主は 5 代目。地元民に愛される素朴な和菓子を提供しており、草餅、大福、どら焼き、芋羊羹などどれも絶品。

だるま家；今年オープンの新しいお店。国産ブランド豚の「味麗豚」を使ったチャーシューをメインにお弁当と惣菜を販売している。店の外には一風変わった自販機があり、自販機でもつ煮や唐揚げなど惣菜を販売している。

つくばチキン；鶏肉専門店。国産若鶏の精肉やローストチキン、炭火焼きとり、唐揚げなどを販売。

沼屋本店；1870 年頃に創業された醤油・味噌の製造販売蔵元。名産の福来みかんを使ったポン酢は筑波コレクションにも選出された名品。

### 3-3-2 谷田部 de マーケットの提案

#### 3-3-2-a. 現在の活動

現在谷田部市街地では年に一回秋に「谷田部市街地の賑わいを取り戻そう！」を合言葉に、区長会谷田部支部や谷田部市街地活性化協議会が主催し、地域交流イベントとしてオータムフェア in 谷田部を開催している。2017 年の開催では、骨董市が開かれ、地元グルメの模擬店や老舗の和菓子店など出店し、千歳通りで小中学生の金管バンドやダンスが繰り広げられた。



図そぞろ歩きで宝物を探す来場者たち＝つくば市谷田部（2017.11.3）



手作りの豚汁や焼きそばなどが販売されて行列ができた(2017.11.3)

#### 3-3-2-b. 事例 つくいち

つくいちとはつくば駅前公園などのつくば市で月に一回行われるつくばの朝市。“生産者と消費者が触れ合える場を作りたい”という思いをもとに2008年より「背景までおいしい つくばのマーケット」をテーマにつくば市民により企画、開催をしている。つくいちでは『地場産で、安心できる、質の高い商品を提供する、個人でがんばる人たちが集まる市場を自分たちの手で』という理念を掲げており、シンプルな運営で手間をかけず、資源をかけず、できる限りゴミを出さない市場を目指し、エコバックやマイカップ、マイ箸、マイ皿などを呼びかけている。自家製の物品や茨城の素材を使った加工品が売られている。2016年現在出

店の比率として生鮮・加工食品 14、飲食 6、物品・その他 2 となっており、野菜や畜産品が含まれる生鮮とパンなどの加工食品が含まれる加工食品が大半を占めている。

### 3-3-2-c. 谷田部 de マーケットの提案

私たちはこれまでの内容を踏まえ、『谷田部 de マーケット』を提案する。谷田部 de マーケットでは谷田部の石畳が敷かれた比較的車通りの少ない千歳通りで開催し、簡易に建て



つくいちの様子

られた出店で谷田部にある、和洋菓子店・唐揚げ屋・農産物などの販売。また谷田部はつくば市の端にあることからつくばみらい市などの隣町から人を呼び寄せたいと考える。そのためにも谷田部に留まらずつくば市各地の物品や加工品も販売。月 2,3 回程度開催し、生産者と消費者が繋がることのできる場を目指す。

### 3-3-2-d. 谷田部 de マーケットの有用性



図 12 谷田部 de マーケットのイメージ

谷田部 de マーケットの有用性として以下のことが挙げられる。文献調査でもあったように谷田部は江戸時代より交通の結節点として栄え、周辺地域との交易も多くあったという歴史がある。そして、千歳通りの周りには陣屋やつくば市庁舎があったことから谷田部の中心となり、人を呼び寄せるポテンシャルを持っている。高野屋商店さんのヒアリング調査

の中でもあったように谷田部商店街はイベントごとに強いという長所を持っている。また、ヒアリング調査では‘商店街をもっと盛り上げたい’という思いがどのお店でも伝わってきた。そして、交通量の多い国道 354 号と谷田部 IC があり、アクセスはとてもいい。最後に谷田部には米や白菜、さつまいも、ネギ、メロン、スイカ、柿、味噌、漬物などのこのほかにも多くの多種多様な特産品がある。千年通りから近くにある庁舎跡が駐車場として活用でき、車の利用にも対応できる。このマーケットを続けていく上で来訪者が多くなれば最寄り駅であるみどりの駅から臨時バスなどをして対応することを提案したい。このようなことから谷田部の千歳通りで行う「谷田部 de マーケット」の有用性が高いと考えられます。

#### 3-3-2-e. 谷田部 de マーケットの効果

つくば市やつくばみらい市などの隣町からの訪問者が増加し、通過地点でしかなかった谷田部に止まり初めて訪れた人たちに谷田部という町を知ってもらえる機会になる。また、このマーケットで人と人、地域と地域のコミュニティーを形成する場になり、マーケット自体が新たな谷田部の魅力になりえます。最終的には谷田部の衰退を止めることができるのではないかと考える。

## 4 章：結論

### 4-1. まとめ

谷田部には未だ「筑波」としての名残と、研究学園構想やその他の要因による影響が混在していることが調査からわかった。中心性の維持が困難になり、その影響が谷田部の産業構造を変え、人々の生活にも変化をもたらしたと考えられる。歴史的なまちを考えていくうえで、既存の機能で何が必要で、逆に新しい機能として必要になるものが何かをよく考えてまちづくりを行わないと、まちは衰退してしまうのではないかと考えた。

### 4-2. 今後の課題

提案については、実際に問題意識を住民が持っているのかが重要になる。私たちが客観的に見た「谷田部」と地域住民が考えている「谷田部」に相違があることを考慮に入れなくてはいけない。まちづくりを行っていくうえで、住民の声をいかに反映させ、地域全体を活性化していくかを考えていく必要がある。

### 4-3. 参考文献

Accsible Travel Kochi Fukuneko/バリアフリー観光高知 ふくねこ. (2023). 日曜市/商店街.  
参照先: Accsible Travel Kochi Fukuneko/バリアフリー観光高知 ふくねこ:  
[https://barifuri-kochi.com/sunday-market\\_shopping-street/](https://barifuri-kochi.com/sunday-market_shopping-street/)  
つくいち. (2008). 参照先: つくいち: <https://tsukuichi.jimdofree.com/つくいちって/>  
つくば市. (2018). 行政区別人口表. 参照先: つくば市:  
<https://www.city.tsukuba.lg.jp/shisei/joho/jinkohyo/index.html>  
つくば市. (日付不明). 谷田部市街地の特徴. 参照先: つくば市:  
[https://www.city.tsukuba.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/004/506/r2-yatabe.pdf](https://www.city.tsukuba.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/506/r2-yatabe.pdf)  
橋立多美. (2017年11月4日). 「にぎわい取り戻したい」合言葉 谷田部市街地でフェア  
商店主や区長ら. 参照先: NEWS つくば: <https://newstsukuba.jp/1545/04/11/>  
高橋裕美・朝廣和夫. (2014). 特別緑地保全地区と市民緑地における緑地保全活動と施策の  
運用について. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jila/77/5/77\\_537/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jila/77/5/77_537/_pdf).  
小口千明・高橋淳・上形智香・新宮千尋・中川 紗智. (2014). 茨城県つくば市谷田部市街に  
みる往年のにぎわい. 歴史地理学野外研究, 16, 63~97.  
人口統計ラボ. (2022). 参照先: 人口統計ラボ: <https://toukei-labo.com/2010/?tdfk=08&city=08220&id=231>  
谷田部の歴史編さん委員会. (1975). 谷田部の歴史. つくば市: 谷田部町教育委員会.  
藤沢官兵衛. (1990). 勘翁自伝: 八十五歳のうは言. 勘翁自伝刊行委員会.

#### 4-4.謝辞

本演習を行うにあたり多くの方々にご協力いただきました。

スドウ酒店 須藤様

高野屋商店 高野様

玉川堂 玉川様

つくば市商工会企画指導課 口田様

沼屋本店 沼尻様

谷田部商店街の皆さま

本調査にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。